

UNMISSにおける自衛隊の活動について

防 衛 省
平 成 2 5 年 1 0 月

南スーダンPKO派遣部隊の編成

- - - : 施設隊の活動業務のオーダー
 ——— : 施設隊の活動内容の協議
 ——— : 自衛隊の指揮系統(各自衛隊の協同)

防衛大臣

統幕長

UNMISS

中央即応集団

自衛艦隊

航空支援集団

派遣国代表

現地支援調整所

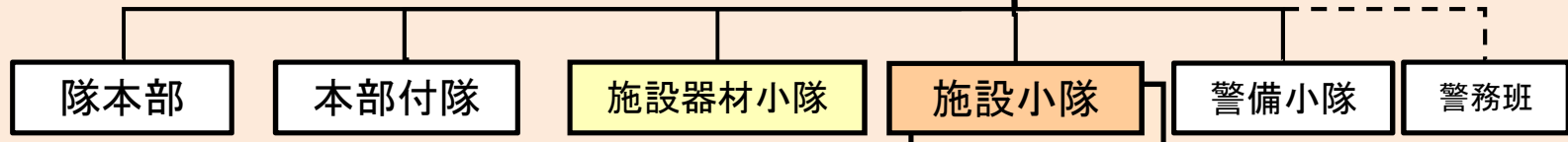
南スーダン派遣施設隊

約330名 派遣部隊指揮官(2佐)

約20名 所長(派遣国代表:1佐)
国連との関係における自衛隊部隊の窓口

- 1次要員: CRF基幹(一部北部方面隊)※
- 2次要員: 北部方面隊基幹
- 3次要員: 東北方面隊基幹
- 4次要員: 西部方面隊基幹

※第1次要員のみ約240名



施設器材小隊
大型重機主体の部隊(※)

施設小隊
マンパワー主体の部隊



施設隊宿营地 (居住地区のコンテナ)

主要な施設器材及び車両 計約160両



ドーザ



グレーダ(※)



油圧ショベル



バケットローダ(※)



軽装甲機動車

主要な武器



9mm拳銃 (計84丁)



89式小銃 (計297丁)



5.56mm機関銃 MINIMI(計5丁)

南スーダン派遣施設隊の活動状況（施設活動）



トンピン地区内排水溝整備

平成24年3月1日～7月27日、UNトンピン地区において排水溝の整備(1万2,000m)を実施。



給水点連絡道整備

平成24年4月2日～9月7日、道路整備(2,000m)及び側溝整備(4,800m)を実施。



ジュバ空港国連エプロンの整備

平成24年4月16日～11月22日、UNトンピン地区のエプロン整備(6万5500㎡)を実施。



ジュバ大学敷地造成

平成25年1月31日～3月11日、ジュバ大学新キャンパスの敷地造成を実施。



ジュバ・イエイ線道整備(実施中)

平成24年10月8日より、ジュバ道路整備(本月上旬時点で22,050m)を実施(現在も継続中)。

活動の実績(概数) (平成25年9月上旬時点)

活動件数	92件
道路整備	3万1000m
側溝整備	3万2000m
用地整備	10万9000㎡
施設構築	7件
施設解体	1件

ODAとの連携について

国際平和協力活動に効率的・効果的に対応するため、南スーダンにおける自衛隊施設部隊の活動に当たっても、ODAやNGO等との連携を重視し、オール・ジャパンとしての連携活動を実施。

ODAとの連携の例

浄水場内老朽化施設の解体: ジュバ市浄水場に存在していた老朽施設を解体。UNMISS日本隊として、UNMISSと調整の上、国際協力機構(JICA)が行うジュバ市浄水場能力強化のためのプロジェクトと連携し、政府開発援助(ODA)と連携した初の案件。

ナバリ地区コミュニティ道路整備(実施中): 草の根無償資金協力によって調達された資材を使用し、コミュニティのための生活道路及び排水のための側溝を整備。また、事前作業として活動現場の清掃作業を地元住民と協力して実施。作業に当たっては、政府雇用の現地作業員による排水溝の石積を実施中。

ジュバ市浄水場内老朽施設の解体



作業前(左)と、作業後の様子(右)。

ナバリ地区コミュニティ道路整備 (現在実施中)



路面浸食の状況(左)と、降雨時の冠水状況(右)。



活動地域における地元住民との清掃作業(左)と、道路整備作業の様子(右)。

国際機関及び他国派遣部隊等との連携について

国連機関との連携の例



WFP敷地内道路等整備作業

自衛隊がジュバ市内の国連世界食糧計画(WFP)敷地内の道路及び駐車場の整備を実施。



UNHCR帰還民一時収容施設の敷地造成

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)帰還民の一時収容施設建設のため、自衛隊が敷地造成及び簡易木造施設の建設を実施。



横断歩道舗装プロジェクト(民生協力活動)

UNICEF主催の現地小学生を対象とした横断歩道の塗装イベントに対して、豪軍、インド軍要員と連携して参加し、小学生への指導を共同で実施。

他国部隊等との連携の例



ジュバ大学新キャンパスモニタリング作業

UNDP事業で新キャンパスを建設するにあたり、豪軍要員とともに、自衛隊(装備施設本部の技官)が施行状況のモニタリング(施行管理)を実施。



ルワンダ隊へのコンテナ構築支援

ルワンダ航空部隊居住コンテナ構築支援を実施。



ジュバ市孤児院グラウンド整備

インド歩兵部隊と連携し、ジュバ市孤児院においてグラウンド整備を実施。

展開のイメージ

【現行】

ジュバ及びその周辺で活動

【平成25年5月命令変更後】

国連のニーズに応じて、東及び西エクアトリア州でも活動が可能に

平成25年6月
～準備行為

【平成25年末以降】

東及び西エクアトリア州のいずれかの一地点での施設活動を本格化、まずは東エクアトリア州トリトを予定。

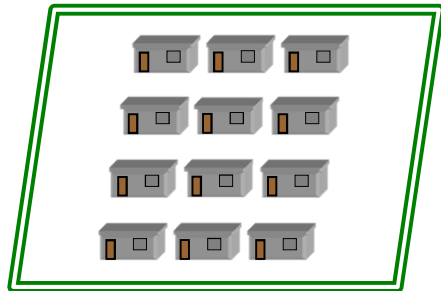


UNMISSの状況(部隊展開状況)



東西エクアトリア州での拠点イメージ①

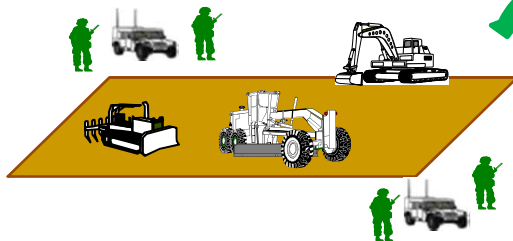
ジュバ
日本隊宿营地



分遣隊を東(西)エクアトリア州へ分派

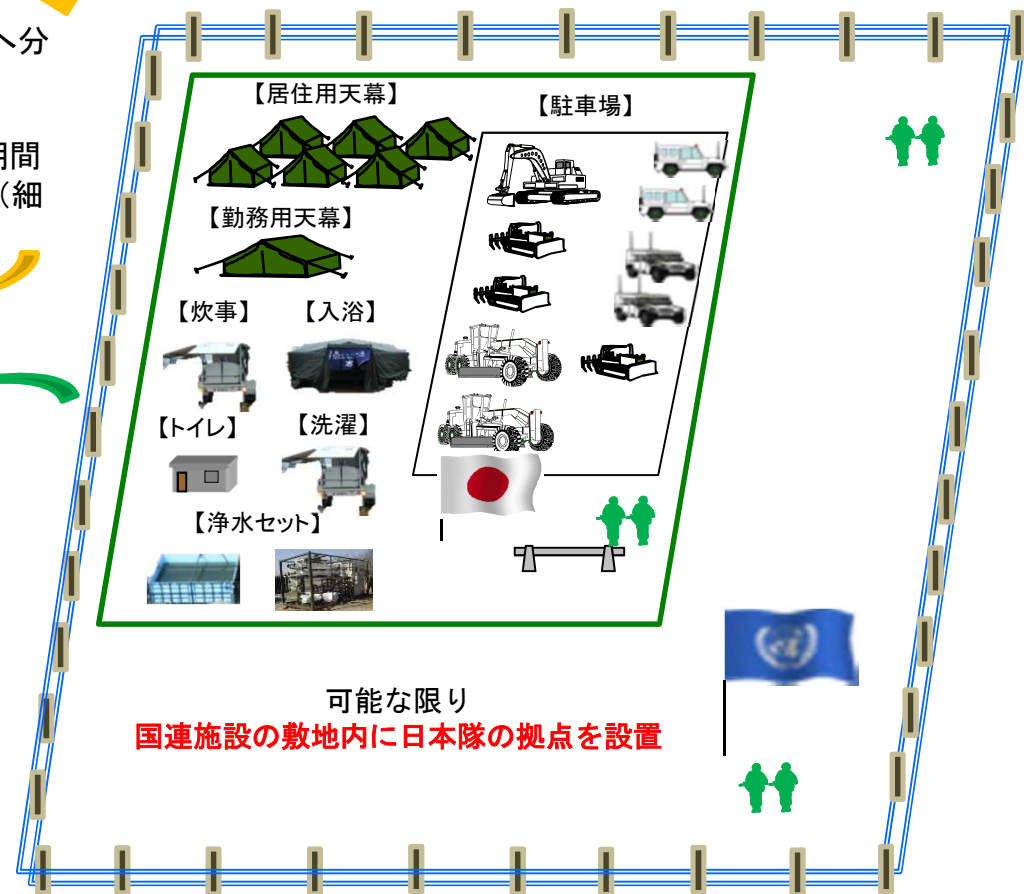
隊員の負担軽減ため、一定期間にて適宜要員をローテーション(細部は隊長の裁量)

施設活動現場
(飛行場整備、道路整備など)



東西エクアトリア州で活動する際の
日本隊(分派隊)拠点

(※ 拠点は、各都市での施設活動開始前に設置し、活動終了後に、次の都市へ移転)



東西エクアトリア州での拠点イメージ②



国連保有の天幕



自衛隊保有の天幕 (Base-X)



Base-X内部



トイレ・シャワーコンテナ (国連保有)



浄水セット



天幕内での炊事

編成の変更及び装備の増強

	現 行	5次要員以降
編成の考え方	<p>□ 施設活動と並行して、案件形成や長距離に渡る物資や車両等の輸送にかかる業務を効果的に実施するため<u>派遣部隊として2コ部隊を編成</u></p>	<p>□ 派遣期間が1年半を過ぎ、業務の手順が概ね確立してきた一方で、活動地域の拡大にともない情報の一元化や運用と兵站の連携強化、緊急時における指揮の容易性などの観点から<u>2コ部隊を統合し、1個部隊を編成</u></p>
編成	<pre> graph TD A[防衛大臣] --> B[中央即応集団] B --> C[現地支援調整所 約20名] B --> D[南スーダン派遣施設隊 約330名] </pre>	<pre> graph TD A[防衛大臣] --> B[中央即応集団 約400名] B --> C[南スーダン派遣施設隊] C --> D[調整所機能] C --> E[施設隊] </pre>
増強	<p>□ 約50名人員を増強</p> <p>□ 約20両車両を増強(ロードローラー、グレーダー、散水車、軽装甲機動車等)</p>	

当面の日程

- 現在施設隊（第4次要員）約330名及び調整所要員（4次要員）が活動中で、11月下旬頃より5次要員に交代を開始予定。
- 現在は首都ジュバ及びその周辺で活動しているが、5次要員以降東エクアトリア州へ活動地域を拡大する。
- 南部3州の治安情勢は概ね安定し、平穏を維持。

